

1 T_EX と文書作成

1.1 はじめに

T_EX(テフもしくはテック)は高度な組版作業を自動化します。T_EXを利用すればワープロよりも効率的に文書を作成することができます。

1.2 T_EX の利点

ワープロと違い T_EX による文書作成ではフォントのサイズやスペースのとり方などを気にする必要がありません。文書の見た目についてはすべて T_EX が面倒を見てくれます。^{*1}精緻に組版されるので印刷の仕上がりはとてもきれいです。見出しや箇条書きの連番を割り振ってくれたり、目次や索引を生成してくれたりもします。書誌情報を管理する機能もあります。

1.3 T_EX の処理

T_EX は [マークアップ](#)されたテキストファイル(*.tex)をコンパイルして [DVI ファイル](#)(*dvi)を出力します。DVI ファイルは [dvipdfm](#) というプログラムによって [PDF ファイル](#)(*pdf)に変換されます。

T_EX では [L^AT_EX](#)(ラテフもしくはレイテック)という処理系を使用するのが一般的です。日本語の文書を作成するには日本語に対応した pL^AT_EX もしくは upL^AT_EX(Unicode に対応した pL^AT_EX)という処理系を使用します。

1.4 T_EX の導入

T_EX を使用するために必要なものは以下の 3 つです。^{*2}

| | |
|------------------------------|------------------------------------|
| T _E X ディストリビューション | T_EXLive |
| T _E X エディタ | L_yX |
| PDF ビューア | Sumatra PDF |

T_EX Live には組版に必要なプログラムがすべて含まれています。L_yX は T_EX を使いやすくするためのエディタです。ワープロのようなインターフェイスで文書を作成・編集することができます。Sumatra PDF は組版処理された PDF 形式の文書を確認するために使用します。これらのインストールの詳細については [T_EXWiki](#) を参照してください。

^{*1} ユーザが文書の見た目についてやるべきことは、あらかじめ用意された文書のクラスおよびスタイルを指定することだけです。文書の見た目を独自に調整することもできますが、その必要はほとんどありません。

^{*2} T_EX Live には [T_EXworks](#) という T_EX エディタが含まれていますが T_EX のコマンドを直接記述する必要があるので初心者には不向きです。T_EXworks は PDF ビューアとして使用することもできます。

1.5 T_EX の使用

L_AT_EX の基本的な使い方はヘルプのチュートリアルを参照してください。日本語の文書を作成するには日本語用の文書クラス ([jsclasses](#) もしくは [BXjscls](#)) を選択する必要があります。

コンパイル時に文字コードに関するエラーが出る場合は以下のようにします。

- 文書の文字コードに"日本語 (pL_AT_EX)(UTF-8)"を指定する
- PDF 特性の追加オプションに"unicode=false"を指定する

[Beamer](#) はスライドを作成するための文書クラスです。Beamer を使用するには dvipdfm が正しく機能するように [今さら人に聞けない「日本語で Beamer」のキホン - Qiita](#) に従って文書を設定する必要があります。